



# 施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602  
7月の休館日： 5月、12月  
20火、26月

## ★★★ 注目のイベント ★★★

8月14日(土) 14:00～ グランドホール

### ミュージカル「火垂るの墓」



野坂昭如の直木賞受賞作であり、戦争文学の名作として名高いこの作品が初のミュージカル化。原作やアニメ映画とは一味違ったアレンジを加え、厳しい戦時を必死に生き抜こうとした二人の兄妹の物語を、音楽とダンスとともに、子どもにもわかりやすく描きます。

自由 一般1,500円、中学生以下500円、  
シニア1,000円、SP 価格1,000円【チケット発売中】

9月4日(土) 18:00～ グランドホール

### 宮川彬良&大阪市音楽Dahhhhh!



宮川彬良と大阪市音楽団によるプラスエンターテイメント。宇宙戦艦ヤマトをはじめ、聞きなじみのある曲と彬良さんの楽しいトークでお楽しみください。

指定 一般4,000円 ※4歳以上入場可  
【チケット発売中】

9月11日(土) 15:00～ グランドホール

### 宝くじコンサート～シューマン生誕200年～ 大阪交響楽団演奏会

新進気鋭の指揮者川瀬賢太郎、ソリスト三浦友理枝によるシューマンのピアノ協奏曲と、テレビドラマ「のだめカンタービレ」で有名になったベートーヴェンの交響曲第7番をご堪能ください。



指定 一般3,000円 高校生以下1,500円  
※宝くじ助成による特別料金です。

7月6日(火)・16日(金)・23日(金) 18:30～ メッセホール

### 自由 ひこね市民大学講座2010「歴史手習塾」

「セミナー3」>「NHK大河ドラマから見た歴史」

8月3日(火) 18:30～ グランドホール

### キエフ・バレエ ～ウクライナ国立バレエ～

指定 華麗なるクラシックバレエ・ハイライト

8月29日(日) 13:30～ ひこね燦ばれす

### 歴史特別講座

#### 「プリンセス・トヨトミ」

小説家・万城目学氏を講師に招き、関西の歴史をひも解く講演会を開催します。

自由 一般1,500円 SP価格1,000円【7月1日(木)発売開始】

11月28日(日) 14:00～ エコーホール

### 金亀亭落語ライブvol.7

#### 柳家三三・柳亭市馬

指定 3,500円 【チケット7月23日(金)発売開始】

### そのほかの催し物も好評発売中

チケットのお申し込み、お問い合わせは

チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

インターネットでも購入いただけます。http://bunpla.jp/

## 彦根城博物館

☎22-6100 FAX 22-6520  
7月の休館はありません。  
※7月27日(火)～同29日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

7月27日(火)まで

### 戦国「激動の佐和山城」

#### 巻の1 一群雄割拠の時代

湖東の要害・佐和山城をめぐる京極氏・浅井氏と六角氏の攻防や、高野瀬氏ら地域勢力が奮闘する姿を紹介しします。



高野瀬秀隆画像 ▶ (崇徳寺蔵)

市指定文化財

7月30日(金)～8月31日(火)

### 戦国「激動の佐和山城」

#### 巻の2 一石田三成の時代

豊臣政権のもとで、全国支配の主要な拠点のひとつとして位置付けられ、新たな城郭として生まれ変わった佐和山城の様子や、城主三成の領内支配について紹介しします。



▲佐和山古城図 重要文化財

ギャラリートーク

#### 「激動の佐和山城一石田三成の時代」

7月31日(土) 14:00～15:00

解説：本館学芸員 藤尾 隆志  
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

## ほんものとの出会い

### 常設展示の名品

常設展示「“ほんもの”との出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に80点あまりを展示しています。

7月26日(月)まで

#### 笙 銘萬歳丸

雅楽で使う管楽器。紀州徳川家、楽人の手を経て、井伊家12代直亮の所有となったもの。当時の金額で450両という高価なものでした。



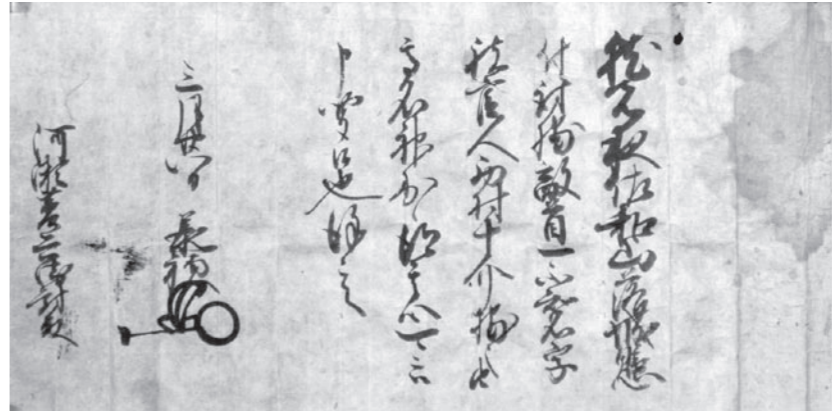
常設展示の名品

## 佐和山城攻防戦に名を残した男

## ときの玉手箱

博物館からのメッセージ

▶六角承禎感状  
当館蔵(西村藤右衛門家文書)



慶長5年(1600)の関ヶ原合戦における功績により、井伊直政は近江国に領地を得ます。慶長9年から築城工事が始まった彦根城はのちに彦根藩の拠点となりますが、築城以前、この付近の軍事的拠点は彦根山の東方に位置する佐和山城でした。佐和山城は、標高232mの佐和山(佐保山・沢山とも呼ばれる)に築かれた中世の城です。佐和山城の始まりは、鎌倉時代初期、近江国の守護・佐々木氏の一族である佐々木時綱が佐和山付近に館を設けた時とされています。佐和山は、北には入江内湖、西には松原内湖が広がり、中世の東海道(江戸時代の中山道)と下街道(江戸時代の朝鮮人街道)の両方を掌握できる場所に位置しています。戦国時代の佐和山城は、湖北勢力と湖南勢力との「境目の城」であり、この城をめぐるのは、北方の京極・浅井氏と南方の六角氏とが衝突を繰り返しました。京極氏は上平寺城(現

在の米原市)、浅井氏は小谷城(現在の長浜市)、六角氏は観音寺城(現在の近江八幡市)をそれぞれ本拠としていました。写真の古文書は、3月28日付で六角義賢(法名承禎、1521～98)が、河瀬官兵衛尉に宛てて出した感状(戦功があった者を賞して送る書状)です。その内容は、六角方として出兵した河瀬が、佐和山城を落城させる際に駆けつけ、敵の首を1つ討ち取った。これは河瀬の被官(家来)である西村十介の功績であるとのことを読み、高名を挙げて感心である、というものです。永禄4年(1561)3月、六角義賢が浅井方だった佐和山城を攻略していることから、この感状は同4年に出されたものと推定されます。宛先に出てくる河瀬氏は、京極氏に出自を持ち、河瀬庄(現在の川瀬馬場町・南川瀬町)に領地を持っていた国人(地域の有力武士)の一族です。

また河瀬氏の被官人である西村氏は、今村(現在の開出町)に本拠を置く今村氏の一族です。佐和山城をめぐる戦国大名同士の戦いに、佐和山周辺の地域勢力が参加し、戦果を挙げていることがわかります。この感状は西村十介の子孫の家に伝わったもので、現在、彦根城博物館に収蔵されています。一部の有名人を除き、戦国時代に生きてた大多数の人々は、歴史に記されることはなく記憶からも消えていきます。西村十介も著名な人物ではありませんが、この古文書を読み解くことで、その名前と活躍が約450年の時を経て現代に甦ってきます。

(彦根城博物館学芸員 青木俊郎)

写真の古文書は、彦根城博物館テーマ展「シリーズ戦国巻の1「激動の佐和山城」群雄割拠の時代」で、7月27日(火)まで展示します。(期間中無休)